

# 『筋萎縮性側索硬化症の 在宅看取りに影響する要因分析の研究』 お知らせ

## 1. 実施目的について

近年の少子高齢化や医療提供体制の変化に伴い、終末期医療の場の選択肢が多様化しつつあり、がんや難病での在宅看取り数も増加しています(厚生労働省医政局指導課在宅医療推進室資料より)。

当院では石川県や富山県を中心に代表的な難病のひとつである筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者さまを多く診療していますが、この ALS においても穏やかな在宅死を望まれる方は少なくありません。

今回、より質の高い医療を提供する基礎資料とするために、ALS における過去の診療録から、終末期医療に対する記述をもとに在宅看取りを望まれた症例の背景、療養環境、予後について検討します。これによって、今後の ALS 診療において考慮すべき因子を明らかにし、より質の高い医療を提供することを目的とします。

## 2. 実施内容について

方法は、2006年から2015年末までに神経内科・内科を受診または入院されたALS患者さまのうち、ご自宅での看取りを望まれたことのある方のカルテをしらべ、その方の年齢・性別や病気になったときの状態と症状の経過、栄養・呼吸状態、療養環境、その後の経過についてまとめ、その傾向を分析します。

カルテを実際に調べる作業を行う期間は、これより2017年3月末までです。

## 3. 研究代表者

駒井 清暢 (医王病院院長 診療部・神経内科)

## 4. 調査対象期間

2006年1月1日から2015年12月31日までを調査対象期間とします。

## 5. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、個人が特定できないデータに変換された上でデータファイルが作成保存、分析されます。この研究により個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして学術的な場でのみ公表します。

## 6. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合や、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。